

# SYOHEI ニュース 令和6年10月号

## 角塚古墳 (つのづかこふん) について

総合水沢病院副院長 遊佐 透

水沢病院から車で国道397号を西に走ると、10分足らずで大きな木が立っている丘が道路左側に見えてきます。これが角塚古墳です。

始めてこの道を通ったとき、「お、古墳じゃないの!」とちょっとした驚きと、懐かしい気持ち



になりました。なぜ懐かしいと思ったのか。それは私の子供の頃の記憶が関係しています。



私は宮城県仙台市の出身です。小学校3年生の時に父が家を建てて引っ越したのが、仙台市若林区にある実家です。昔の住居表示は南小泉といい、伊達政宗が晩年を過ごした若林城跡も近くにありますが。その実家から歩いて10分程のところに、遠見塚古墳という史跡があります。今では綺麗に整備され、周辺も住宅地となっていますが、私が子供の頃は、田んぼの中にポツンと小高い丘があるだけでした。当時はまだ史跡として整備・保全されておらず、すぐ隣が小学校と言うこともあり、子供達の遊び場となっていました。子供達が駆け登ったり、斜面を滑ったりするものですから、一部は土が削れていたり、結構、荒れていました。また、実家から仙台の中心部に向かう道沿いには、法領塚古墳もあります。聖ウルスラ学院の敷地内にあるため、毎日、学校帰りのバスの窓から眺めるだけでしたが、小高い古墳の上の大きなケヤキの木が印象的でした。このように、私にとって古墳は身近なものとして記憶されており(遊び場として、ですが)、大きな一本杉が植えられ

ている角塚古墳は法領塚古墳と非常によく似ており、そのため懐かしいと感じたのだと思います。

角塚古墳は遠見塚古墳と同じ「前方後円墳」で、1985年に国指定史跡に指定されました。Wikipediaでも「岩手県では唯一の前方後円墳であるとともに、日本の最北端に位置する前方後円墳である」と写真付きで紹介されています。

詳しい解説はwebで見ればと思いますが、古墳時代からの仙台地域と当地の関係性が伺われ、興味深いところです。



## 田んぼアート 今年「野球しようぜ!」

東水沢中学校から北へ300㍍、小高い丘にそ



びえ立つ高さ20㍍の櫓が目を引く、789年、征東大將軍紀古佐美率いる朝廷軍をアテルイが打ち破った

「巢伏の戦い」の地、跡呂井地区で田んぼアートは行われています。

平成20年に地域おこしの一環として地元有志が実行委員会を組織してスタートした田んぼアート。

特産品や郷土芸能、アニメなどを題材に、毎年異なる趣を持つ作品が描かれています。



今年のテーマは大谷選手で「野球しようぜ!」

## 大谷翔平選手の成績ボード (R6. 9. 24 現在)

打率 301③ 本塁打 53① 打点 123① 盗塁 55②  
6.8.31 MLB 史上初の快挙 43本塁打 43盗塁達成  
6.9.20 MLB 史上初の快挙 50本塁打 50盗塁達成

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。  
令和6年9月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室  
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833  
※市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第54号

# つづかこぶん はにわ 角塚古墳と埴輪

胆沢南都田字塚田 ぶらり奥州散歩道 VOL26, 奥州遺産No.16

広報おうしゅう平成20年4月号・平成24年1月号

胆沢扇状地のほぼ中央に位置する角塚古墳は、日本最北端の前方後円墳として、昭和60年3月に国指定史跡となりました。現在は墳丘部のみが残る状態ですが、全長45㍍、墳丘頂上までの高さが4.3㍍あり、県内では最大、最古の古墳です。

前方後円墳という、墳墓としては世界最大級の大仙古墳(仁徳天皇陵・大阪府堺市)が有名です。この形式は、3世紀後半から6世紀まで全国各地で造られています。前方後円墳は、前後の年代に造られた墳墓と比べて規模が大きく、支配者の権



①南側上空から見た角塚古墳。前方後円墳独特の形状が分かる②調査結果に基づく復元予想図。後円部には埴輪が環状に並べられていたことが判明③現在の墳丘部。風化や後代の人々の手によって高低はかなり変わっている

力誇示や、権力承継の儀式の場などとして使われたともいわれています。

角塚古墳の本格的な調査は49、50年に行われ、土を押さえるために敷きつめた葺石、埴輪、周囲を囲む壕(周湟)が確認されました。また、平成10年から12年までの調査では、全長45㍍、後円部の直径32㍍、周湟の幅が最大5㍍あることが分かりました。築造年代は、周囲から出土した埴輪の制作年代により、5世紀後半と考えられています。

この古墳に埋葬された人が誰なのかは、まだ分かっていません。地元には、昔この地方で大暴れした大蛇の角が埋められているという伝説があります。ほかにも、なぜ県内では1基しか確認できないのかなど興味深い謎が数多く残されています。

**埴輪** 角塚古墳からは、数多くの埴輪が出土しています。これらの埴輪は、大半が円筒埴輪の破片ですが、イノシシやウマ、ヒトなどを模した形象埴輪や朝顔形埴輪の破片もあります。

現在は、胆沢文化創造センター内にある郷土資料館に収蔵されるこれらの埴輪。一説によると、古墳の主である王の葬送儀礼と、即位式で使われたと言われていています。円筒埴輪は古墳のへりに列を作り、形象埴輪は古墳に飾られた一つ一つの形に意味があったと考えられています。

これらの埴輪はどのような王を弔い、どのような王を迎えたのか。瞳を閉じると歴史のロマンが広がっていきます。

右の写真は、上：円筒埴輪、中：ニワトリを模した形象埴輪、下：左からイノシシの鼻・みずら(男性の髪型)、まげ(女性の髪型)を模した形象埴輪の破片

